

出題分析		
試験時間 90 分	配点 ※	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
【概評】 ここ数年、関西大学の英語は出題の形式に大きな変化はなく、その分対策がしやすいと言える。だが、それぞれの大問にいくつか紛らわしい設問が見受けられることがあり、そうした問題にいたずらに時間を取られないよう注意する必要がある。試験時間は 90 分で、大問は 3 題。大問 I は、会話文の空所補充と、文整序から成る。大問 II の長文読解は、空所補充と内容一致文完成が出題される。大問 III の長文読解は、内容一致文完成と質疑応答が出題される。		

※ 学部・型・方式により、配点が異なる。入試要項を参照。

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	A. 会話文 「パーティー会場の下見」 ○186 語(昨年:211 語)	A はパーティー会場であるレストランの下見をする二人の会話。空所前後の意味の流れに注目することが重要。(2)の A の we could order as much as we want は、直前の all-you-can-eat 「食べ放題」の言い換え。(5)は直前の as this is Japan がヒント。	標準
	B. 文整序 「パスポートのペーパーレス化について」 ○205 語(昨年:246 語)	B はパスポートのペーパーレス化について述べた文章。C の one of its biggest transformations の具体的な内容が B で述べられている。F の The testing を言い換えたものが E の the trials。	標準
II	長文読解 「ハッブルの天文学への功績」 ○語数: 904 語 (昨年) 854 語	ハッブルの天文学への功績を述べた文章。A の空所補充の(4)は、空所後の had offered の時制に注目する。大過去形であることから、前後の過去形より「前」のことだと分かるので、A の Earlier, を入れる。(5)は、C の accepted と D の received の使い分けが問われているが、「O [招待・申し出など] を受け入れる」という意味では、C の accepted を入れる。	標準

設問別講評			
III	長文読解 「犬のテレビ視聴に関する研究」 ○語数：840 語 (昨年) 803 語	犬がテレビを見る際の反応やその理由について、獣医学者の研究をもとに論じた文章。専門的知見と飼い主の主観的解釈の対比が読み取れる。Aの質疑応答の下線部理解には文脈把握が必須で、例えば(10)は下線部前半にあるの hug 「ハグ」から、過去の報酬に基づく行動であると判断できる。Bの内容一致文完成の(4)は、設問が「警告している内容」ではなく「動揺しないもの (unlikely to be upset)」を問うている点に注意が必要だった。	標準

設問構成 (設問数・形式・内容)						
大問番号	設問数	選択式				
		空所補充	文整序	内容一致文完成	質疑応答	その他
I	2	5	6			
II	2	15		7		
III	2			7	10	

※「選択式」の欄の数値は、各設問内の小問数を表す。

合格のための学習法
<p>比較的分量が多く、さらに難解な文章を読ませる関西大学の英語で合格点をとるには、確固たる語彙力と、文法に基づく強靱な読解力を身につけることが肝要だ。そのためには1学期のうちに文法をしっかりと理解し、読解にどのように運用していくのかを学ぶことが重要になる。夏以降は過去問などを使用していきが、まずは読む速さを気にしなくてもよいので、着実に英文を理解し、論拠を持って解答できるようになっていくことを目指そう。傾向分析や戦略も重要ではあるが、英語の力を伸ばすことと向き合わずして合格への扉は開かれな。一歩ずつ着実に歩みを進めることができた受験生にのみ、未来は開かれる。</p>